

Cfan

集う、繋がる、好きになる!

-シー・ファン-

2026_WINTER

FREE ¥0

Vol. 07

障がいのある方々や高齢者、子どもたちの活躍や、福祉に関して意識高くサポートしている企業や団体、現場で働くスタッフなどを紹介します!

僕にとって福祉は
「助け合い」だと思っています



注目の特集

特別対談

福祉は暮らしのすぐそばにある

高木貴行市長 × 肥田和明代表

Special interview /

共同生活援助 GiOhome

フクシのお仕事魅力発見



CONTENTS

- 02 ごあいさつ 誰もが自分らしく生きられる社会を目指して
- 03 特集1 特別対談 福祉は暮らしのすぐそばにある
たかぎ たかゆき ひだ かずあき
高木 貴行市長 × 肥田 和明 代表
- 07 地域と交わる場をつくる はだし工房共同作業所
- 09 頼れる先が増えたと、人生は今よりもっと自由になる
- 10 まちなかバリアフリー調査 視覚障害編
- 15 特集2 フクシのお仕事魅力発見
共同生活援助 GiOhome(ジオホーム)
はしもと そうま
橋本 奏真さん
- 17 おまえ ゆうすけ
尾前 悠輔さん 就労継続支援A型事業所 TRID(トリッド)
- 19 にしだ みつき
西田 光幸さん 就労継続支援B型事業所 SWINGU(スウィング)
- 21 C-fanフェス イベントレポート
- 23 ふくしたいけん
C-fan編集部 福祉体験レポート
- 25 からだ けんこうぞうしんしつ
こころと身体の健康増進室
- 26 障がいがあってももっと楽しめる **グルメ特集**
中華楼せん / 美濃焼和食割烹 二代目 浪花 /
スパイスファクトリーあべべ / 串カツ田中 アスティ多治見店

TAJIMI

C-POWER

地域 × 福祉

つたえる、つたわる
魅力発信プロジェクト

多治見市の福祉が今よりもさらに良くなるように、皆様と一緒に考え、行動していきたいと思っています。

私たちは、「誰もが主役のまちづくり」を目指し、自立とは「頼れる先を増やし続けること」を目標に掲げ、さまざまな活動をしています。



C-Fanは、このまちの魅力、頑張っている人、多治見の福祉の魅力をたくさん盛り込み、皆さまのもとにお届けします。

障がい者の「しごと」をつくる

障がいのある方が、住み慣れた地域で「個々の特性に応じて、安心して、長く働ける」ことを目的に、「働きたい」という気持ちに寄り添い、その気持ちに応えたい企業様とつながっています。



福祉業界の「はたらく」をつくる

福祉業界は人が足りていないと言われています。福祉の担い手を増やすために、福祉の多様性や仕事の魅力について、実際の働く現場から見えてくる創造性、感じる魅力や課題について発信します。

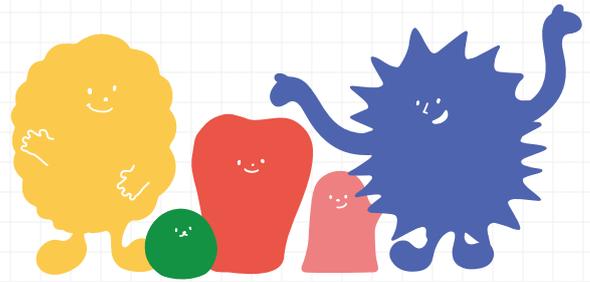
福祉とデザインの「モノづくり」

障がいのある方がアートやイラストなどのモノづくりを自由に発信できる場所を提供し、新しいチャンスや道しるべとなる活動を行います。「作品を発信できる場所」と「経済的対価を得られる仕組み」の環境を整えています。

福祉コミュニティを「にぎやかに」

「バリアをなくそう多治見から」を合言葉に、バリアをなくしていく活動や、『自立』とは何か、また、『自立』を支えるためにどうしたらいいかを専門家と共に考え、やるべきことを具体的にしていく活動を行っています。

C-fanをお読みいただいている皆さまへ



誰もが自分らしく 生きられる社会を目指して

C-fanを手にとってくださり、ありがとうございます。

皆さんは「福祉」と聞いて、どんなことを思い浮かべるでしょうか。

自分とは少し遠いもの、特別な人のためのもの。

そんなふうを感じる方もいるかもしれません。

福祉とは、誰もが安心して幸せに暮らせるよう、社会全体で支え合っていくこと。

生活の中で困っている人や、弱い立場にある人を支える、

さまざまな活動や仕組みのことです。

福祉は、特別な人のためだけのものではありません。

体調を崩したとき、子育てや介護に悩んだとき、

誰もが人生のどこかで、支えが必要になることがあります。

C-fanは、「誰かのため」が、自分らしさにつながっていくこと。

支えることは、一方通行ではなく、つながり合うこと。

そんな気付きのきっかけになれば、という思いで制作しています。

第7号となる今回は、多治見の街の中にある身近な福祉や、

そこで関わる人たちの想いや声を、等身大で紹介しています。

読み終えたときに、「自分にも関係あるかも」「ちょっと知れてよかった」

そんな小さな気付きを感じてもらえたら幸いです。

C-fanを通して、誰もが自分らしく生きられる社会について、

一緒に考え、知り、感じてもらえるように。

その思いが広がっていくことを願い、これからも活動を続けていきます。

C-fan編集部

C・POWERグループ代表

肥田和明

特別
対談

多治見市長

高木貴行

— 自己紹介をお願いします。

市長 第9代目多治見市長の高木貴行です。就任して3年が経とうとしています。「市民が主役！躍動するまち多治見」を掲げ、1人ひとりの価値観を大切に、多様性の社会の中で市民の方々が活躍しながら、まちを底上げしていきたい。多治見市を作り上げたいと考えています。

福祉は暮らしのすぐそばにある！

福祉と聞くと、「自分には関係ない」と感じる人もいるかもしれませんが、生まれたときから、高齢者になるまで、私たちは誰もが福祉と関わりながら生きています。この対談を通して、多治見市の取り組みや、福祉を「自分のこと」として考える大切さを見つめます。

肥田 C-POWERグループ代表の肥田和明です。「頼れる先を増やし続けて自立する」という想いを大切に、企業と障がいのある方々の支援を行なっています。

高木市長とは22年前に知り合ってから、交流させていただいています。本日はよろしくお願ひします。



高木貴行 多治見市長

多治見市生まれ。28歳で岐阜県議会議員に当選し、以降4期16年務めたのち、令和5年4月に第9代多治見市長に就任。趣味は読書・サッカー・フットサル。

C-POWERグループ代表 **肥田和明**

多治見市生まれ。先天性多発性関節拘縮症と診断される。平成14年にデザイン事務所を創業し、平成24年障害福祉事業へ事業拡大。現在C-POWERグループの代表として法人4社を経営。



—「福祉」と聞いても、何のことを指すのかわからない方も多いと思います。それぞれの立場から「福祉」とは何か教えてください。

市長 行政の立場から言えば、市民一人ひとりが幸せに、このまちで安全安心に住み続けられるよう、必要な人へ適切な支援を行うことが福祉だと考えています。

肥田 私自身、毎日福祉サービスを受けながら生活を維持している当事者の1人です。日々の暮らしの中で、「明日は起き上がれるのだろうか」「親亡き後、どうやって生活していけばいいのだろうか」といった不安に押しつぶされそうになるときに、福祉が身近にあって安心できる存在であってほしいと考えています。

福祉の分野(一部)

障害福祉

障がいのある人が、地域で安心して暮らせるように、生活や仕事、社会参加を支えます。

介護・高齢者福祉

高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、介護や見守り、生活を支えます。

児童福祉

子どもが健やかに育ち、安心して過ごせるように、成長や発達、家庭の子育てを支えます。

だからこそ、障害福祉サービスを提
供する立場としても、困ったときや不安なときに頼れる存在でありたいと思っています。

—福祉サービスの支援や体制について教えてください。

市長 福祉サービスには、障害福祉や介護・高齢者福祉だけでなく、児童福祉や保健医療など、さまざまな分野があります。

肥田 私は、障害福祉の分野で事業を行なっています。自ら望んで障がいを抱えている人はほとんどいません。先天的な要因や外的要因、心理的ストレスなど、さまざまな理由によって、障がいのある方の社会参加が難しい現状があります。そうした方々が社会や地域で活躍していけるよう、働く場の提

供をはじめ、安心して活動できる居場所づくりや、暮らしを支えるグループホーム事業に取り組んでいます。

また、2年前から児童への支援にも力を入れ、放課後等デイサービスを開始しました。子どもは必ず大人になっていくからこそ、できるだけ早い段階からより良い環境を整えることが大切だと考え、支援を行なっています。

市長 児童に関する取り組みとしては、多治見市では子どもの医療費無償化を18歳まで拡充しているほか、新たに児童発達支援センター「わかば」を開設するなど、特に児童福祉に力を入れています。子育て世代への支援として、駅北庁舎に「ほかばか広場(駅北親子ひろば)」を開設しています。概ね3歳までの親子が室内で遊べるほか、妊婦さんや保護者同士が交流できる場にもなっています。隣には保健センターがあり、子育てに関する相談ができる環境も整えています。さらに、2023年から

は産後ケア事業を開始し、好評をいただいています。

介護・高齢者福祉については、国の制度が中心となりますが、多治見市としても、さまざまな支援や負担軽減の取り組みを行い、市民の暮らしを支えています。

障害福祉サービスの支援(一部)

障害福祉サービスは、身体障害・知的障害・精神障害・発達障害・難病など、障がいの種別にかかわらず、障がいのある人が必要に応じて利用できるサービスです。

子どもに安心して過ごしてほしい	地元で暮らし続けたい	家以外で活動できる場所がほしい	企業で働きたい働けるようになりたい
障がい児の居場所・支援の提供	障がい者の暮らしを支える	安心して活動できる居場所の提供	働く場の提供 働くための能力訓練
<ul style="list-style-type: none"> ●児童発達支援 ●放課後等デイサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ●共同生活援助(グループホーム) ●短期入所 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活介護 	<ul style="list-style-type: none"> ●就労選択支援 ●就労移行支援 ●就労継続支援 ●就労定着支援

あわせて、医療体制についても多治見市は充実しています。1次医療(個人医院やクリニック)、2次医療(市民病院)、3次医療(県立多治見病院)と、それぞれの医療機関が役割を分担し、連携した体制が整っています。こうした医療体制により、平均寿命だけでなく健康寿命も年々延びており、高齢者の方が安心して暮らせる環境につながっています。

肥田 病院に困ることは少ないですね。医療体制が整っていることで、中途障がい者の方々の命が救われるケースも多くあります。脳の損傷などにより、記憶を保つことが難しくなる高次脳機能障害の方も、充実した医療や福祉の支援があることで、社会参加や復帰を目指しやすい環境が整っていると感じています。

多治見市の医療体制



市長 1次・2次・3次医療がそろった医療体制があり、産後ケアの体制も岐阜県内でトップクラスです。また、市内13すべての小学校区に児童館・児童センターがあるのも、全国的に見てほとんど例のない環境です。しかし、こうした支援の充実ぶりは、日常生活の中ではなかなか実感しにくいのが現状だと思います。

肥田 制度や仕組みは整っているものの、当事者として暮らしていると、その良さに気づきにくい部分があります。市として取り組んでいることは本当にたくさんありますが、福祉サービスを「知らない」という状況があると、どれだけ良いサービスがあっても、必要の人に届きません。だからこそ、その情報をどう届けていくかが大切だと感じています。今回のCSPOを通して、福祉サービスを知らなかった人がその存在を知り、実際に利用して救われる。

そんな流れを生み出していけたらと思っています。

——福祉は、どんな人に必要なものだと思いますか。

市長 先ほどもお話にあったように、誰もが福祉の支援を受けようと思っサービスを利用しているわけではありませぬ。私たちは生まれた瞬間から子育て支援を受け、誰もが年齢を重ねて高齢者として福祉と関わりませぬ。そう考えると、福祉は一部の人のためのもではなく、誰もが人生のどこかで必ず関わる、自分の暮らしや人生を支える存在だということ、ぜひ多くの方に知っていただけたらと思います。

——もし福祉サービスが必要になったり、介護・障がい・子育てなどで困ったらどこに相談すればいいですか？

市長 まず市役所の福祉課に相談していただければと思います。代表電話にお電話いただいても、窓口で直接お越しいただいても大丈夫です。「〇〇で困っている」とご用件を伝えていただければ、内容に応じて担当部署につき、適切な相談や案内を行います。状況に合った福祉サービスをご紹介しますこともできます。

肥田 介護であればケアマネジャー、障害の分野であれば相談支援専門員など、専門家につないでもらえませぬ。さまざまな相談に対応してきた経験もあり、最初に相談する場所として安心できる窓口だと思います。

誰もが
住みやすい
まちづくりとは？

——これから、どのようなまちづくりを進めていきたいと考えていますか。

市長 住み慣れたまちで、誰もが元気で安心して暮らし続けられるまちを目指しています。1人ひとり、立場や状況、困りごとは違ひませぬ。そのため、それぞれの声に耳を傾けながら、必要な支援や取り組みを行い、課題にいち早く対応していきたいと考えています。

支援のしくみも、時代や状況に合わせて見直していく必要があります。行政だけではなく、地域の事業者の皆さんにも話を伺いながら、進めていきたいと思っています。

肥田 私がまちづくりで大切だと感じているのは、「続けられること」です。「もっとこうしてほしい」という声にこたえていくためには、組織がこれから先

福祉の相談ごとは市役所へ



も成長し続けられるよう、安定した収入や財源が欠かせません。急に事業をやめたり、財源がなくなったから支援を終えることはできません。だからこそ、持続可能なまちづくりに入力を入れなければいけないと思っています。

——誰もが住みやすいまちをつくるために、多治見市民の皆さんに意識してほしいこと、考えてもらいたいことはありますか？

市長 誰もが住みやすいまちをつくるしていくためには、「福祉を「自分ごと」として捉えていただくことが大切だと思います。福祉サービスは、いつ・どこで・どんなタイミングで、自分や家族がお世話になるか分かりません。だからこそ、今は関係ないと思うのではなく、将来の自分や身近な人の姿を少し想像しながら、福祉やまちの取り組みに目を向けてもらえたらありがたいですね。

肥田 誰もが住みやすいまちづくりのために、障がいのある人自身が、もっと強くなっていくことも大切だと感じています。福祉サービスを受けることは当たり前前の権利ですが、バリアフリーな社会を実現していくには、自分から外に出て人と関わり、声を上げて

いくことが必要です。不安や迷いなど、さまざまな気持ちがあると思います。それでも、勇気を出して一歩前に出なければ、まちは変わっていきません。障がいのある人が受け身のままでではなく、地域の一員として社会に関わっていくことが、住みやすいまちづくりにつながると考えています。

市長 なるほど、とても心に響きました。本当にその通りだと思います。

肥田 私自身、電車に乗ろうとすると「乗りたい電車の20分前には言ってください」と言われることがあります。でも多治見駅では、5分前でもすぐに対応してもらえて、さっと乗せてもらえるんです。そうやって何度も利用する中で顔や存在を知ってもらい、車いすで行くたびに駅員の方から「乗りますか？」と声をかけてもらえるようになりました。

「怖いから」「できないから」と最初から諦めてしまうのではなく、普通に社会に参加していくことで、周りの人は自然と力を貸してくれるようになります。



——最後に、読者の皆さんへメッセージをお願いします。

市長 私の最大の公約である「市民が主役！躍動するまち多治見」のもと、障がいのある人もない人も、多治見市に暮らす皆さんが活躍できる環境をしっかりと整えていきたいと考えています。誰もが安心して元気で活躍できるまちを目指し、これからも取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

肥田 高木市長のお話を聞き、私もすごく勇気をもらいました。2026年に向けてもう一歩前に進もうと考えたとき、理解のある環境や、安心して活動できるまちの存在は、障がいのある私の立場にとっても、とても心強いものです。これからも、勇気を持って挑戦する人たちを応援していききたいと思っています。

※1 中途障がい者

生まれつきではなく、人生の途中で、病気や事故など後天的な原因によって障がいを抱え、生活や社会参加が困難になった人。

※2 高次脳機能障害

脳梗塞やくも膜下出血、事故などによる脳外傷によって脳がダメージを受け、記憶や注意などの脳の働きに障害が生じ、日常生活に支障が出る状態。

はだし工房 共同作業所



理事長 みゆき
安藤 美由紀さん

季節行事や観劇会など、地域と交わる場づくりに力を入れているはだし工房。イベントを通して利用者さんにごん効果が生まれているのか、その様子をご紹介します。



はだし工房は、東濃特別支援学校(旧 東濃養護学校)に通っていた子どもたちの卒業後の活動の場として、親さんが集まって作った場所です。

〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町1647-788

●開所日 月～金+月1～2回土・祝

●開所時間 9:00～16:00(土・日・祝は除く)

●TEL 0572-44-3401 ●FAX 0572-44-3404

●はだし工房で実施しているイベントを教えてください

季節ごとのイベントに加えて、地域の方々と交流できる機会づくりにも取り組んでいます。フリーマーケットでは、後援会の方々と一緒に近隣の皆さんに向けて自主製品やリサイクル品(衣料など)を販売し、利用者さんの活動を知っていただく場になっています。今回開催した観劇会では「劇団そらのゆめ」さんにご協力いただき、はだし工房の仲間も劇に参加して役者としてお手伝いしました。近隣の事業所にもお声がけし、4事業所100名以上の方に参加していただきました。

●イベント開催でどのような効果を期待していますか？

利用者さんがはだし工房で「楽しめること」「経験できること」を増やすことを第一に考えています。

障がい重い方にとって、外出自体が難しい場合も多く、外に出られる機会はとても貴重です。観劇会では、他事業所の方から「声をかけてくれて嬉しいです」とお言葉をいただき、同業者や地域とのつながりを持ち、一緒に楽しむ時間の大切さを改めて感じました。また、地域の方にはだし工房や利用者さんのことを少しでも知ってもらい、関わりを持つきっかけになればと思っています。

●イベントで印象的だったことを教えてください

イベントでは、利用者さんの普段とは違う一面を見ることができ、人と関わる機会の大切さを改めて実感します。



施設長 しんじ
山田 信二さん

劇に参加した利用者さんが、想像以上に堂々とセリフを言っていたり、販売の場でお客さんへ積極的に声をかける姿があったりと、新しい発見がたくさんあります。

また、普段はじっと座っていることが難しい方が、コッパフェスのステージを最後まで集中して観ていたときには、大きな成長を感じました。

はだし工房の主なイベント

- フリーマーケット
後援会主催で出店。年2回程度開催
- 観劇会 2025年11月10日に開催
- なかまの作品展「みんなちがってみんなe展」
毎年12月上旬の障害者週間に合わせて笠原交流センターで開催。2025年の作品展では、利用者さんがイラストを描いた鞆を展示
- 買い物 毎月実施
お給料で好きなものを買ったり、食事をしたりします
- 季節のイベント 夏祭りや花見など



理事 はるこ
古谷 春子さん

はだし工房の自主製品

フリーマーケットやイベント出店で販売している、
はだし工房の自主製品をご紹介します！
利用者さんがいろんな工程で活躍しています。



レザーコースター

利用者さんが自由に刻印
を入れたコースターです。
同じ柄はありません。

ラベンダーのポプリ

利用者さんがラベンダーの花を
小さく刻み、布に詰めています。

アロマな莓ちゃん



FUKUちゃん



レザーマグネット ぴったくん

利用者さんがレザーに電気ペンで顔を
描いて、色付けしています。

利用者さんにイベントに参加した感想をお聞きしました！

C-fanフェスで
商品を並べました。
交流できて
楽しかったです。

商品のパッキングが
得意！

さなだ けん
真田 賢さん



販売でお客さんに「これどう
ですか？」と声かけしました。
いろんな人とお話できて嬉し
かったです。

コースター作りや、
ラベンダー詰めなど
商品を作るお手伝いを
しています！

まみ
石川 真美さん



スタッフ募集中！

はだし工房共同作業所では、
一緒に働くスタッフを募集しています。

週2～3日の勤務でもOKです！利用者さんの支援を行います。
見学もできますので、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 TEL:0572-44-3401

未経験
OK!



募集詳細はホームページへ ▶▶



頼れる先が増えると、人生は 今よりもっと自由になる

C-POWERグループ 代表取締役 **肥田和明**



頼れる先が増えると、人生はすこし軽くなる

■ 自立とは

私は“自立”という言葉、大切にしながらも慎重に扱っています。なぜなら一般的に「自立」と聞くと、まるで“誰にも頼らず1人で立つこと”のように受け取られがちだからです。強くてまっすぐなイメージがある一方で、少し息苦しさもある。— そんな声をこれまで数えきれないほど聞いてきました。けれど、私が大切にしている自立は、そのような硬いものではありません。「頼れる先を増やし続けること」。それこそが私の考える“もう1つの自立”です。

■ 息苦しさの中で気づいた、自由への第一歩

私は生まれつき障害があり、幼い頃を施設で過ごしました。そこには、支援者の都合で決まる暮らしがあり、選ぶ自由も意思を示す場所もほとんどありませんでした。「どうして自分の人生なのに、誰かの判断で決まってしまうんだろう」そんな小さな疑問が、幼い頃から私の胸の中にはずっと残っていたのです。あの頃の私は、“頼れる先”がほとんどありませんでした。選択肢がないというのは、自分の未来を自分で選べないということです。その息苦しさを知っているからこそ、私は「自立」=「1人で頑張る」ではないと強く思うのです。

本当の自立とは、頼れる人や場所が増えていくこと。その積み重ねが、人生に余白をつくり、自由をつくり、自分らしさを取り戻していくのだと思います。

■ “頼る”ことの力

成人を迎えた私は、デザインの世界に飛び込み起業し、失敗もたくさん経験しました。順調だと思えた時期もありましたが、体調を崩し、仕事を

失うこともありました。どんなときも、私を支えてくれたのは、「誰か」の存在でした。相談できる人、助けてくれる仲間、アドバイスをくれる方々。もし頼れる先がなかったら、きっと私は途中で挫折し人生を諦めていたでしょう。“頼る”という行為は、弱さではありません。頼れる先が多いというのは、生きる力が増えるということです。選択肢が増えることは、自由が増えることでもあります。だからこそ、私はC-POWERグループの理念をこう決めました。「頼れる先を増やし続け『自立』する」この理念は、私自身が歩んできた人生の結論であり、次代にも必要とされる価値観だと確信しています。

■ 心が軽くなる“つながり”の力

読者の皆さんに覚えておいてほしいのは、人は誰かに頼り、誰かを支えながら生きていくという当たり前の事実です。しかしながら、頼れる先は、ある日突然“できる”ものではないということです。**日々の出会いや、小さな行動、他者を想う言葉 — そういった積み重ねが、未来の安心につながっていきます。**もし今、「1人で頑張らなくちゃ」と肩に力が入っている方がいたら、伝えたい言葉があります。**頼れる先が増えると、人生はすこし軽くなる。もっと自由になる。**これは、私の実感でもあり、多くの人に届いてほしい願いでもあります。

福祉の仕事は、その“頼れる先”をつくる仕事です。誰かの人生を支えるだけでなく、自分の人生を豊かにする働き方でもあります。このコラムが、読んでくださった誰かの心に灯りを灯すことを願いながら、これからも福祉の魅力をお届けしていきます。



たなか こうせい
田中 康生さん

障がい | 視覚障害 全盲

三線が得意！クリパラポに通所し、練習をしています。
点字を読むこと・点字器を使って書くことができます。

ご協力いただいたのは
生活支援事業所
「クリパラポ」のおふたり！

とまつ なつみ
支援員 **戸松 菜摘さん**

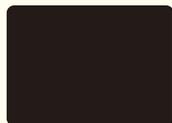
クリパラポの支援員として働いています。
今回は介助者として同行いただきました。

私たちが暮らすまちの中には、どんなバリアフリーがあるのでしょうか。
生活介護事業所「クリパラポ」から多治見駅の改札までの道のりを視覚障がい者の視点から調査しました。

視覚障害とは？

視力(物体を識別できるか)や視野(目を動かさずに見える範囲)の機能に障害があり、眼鏡やコンタクトレンズなどを使用しても、見え方がよくなる状態の事です。

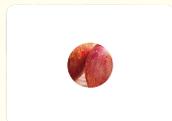
見え方や見えにくさは
人によって様々です



光を感じない(全盲)



ぼやけて見える



中心のみ見える



中心が暗く見える

※紹介した見え方は一例です。

田中さんの基本の移動スタイル

基本的に介助者と一緒に移動します。

介助者と一緒に歩行する際は、白杖を使用せず、介助者の腕を掴むか、肩に手を置いた状態で一緒に歩きます。

点字ブロックがある場所であれば、白杖を使用して1人で歩くことができますが、進行方向や道路状況の確認のために、介助者がいると安心です。

はくじょう
白杖 (視覚障害者安全つえ)

主な機能

- 視覚障害があることを周囲に知らせる
- 路面の情報を収集する
- 路面上にある障害物を検知する

※今回の調査では、点字ブロックがある箇所のみ、白杖を使って歩行していただきました。



介助者

L 歩道と車道との段差

歩道から段差を降りて車道に出る必要があります、介助者が段差の位置を伝えます。駐車場の出入口でもあるため、段差と車の両方に注意を払う必要があります。



M 路駐されている車

事前に介助者が声かけを行い、一度路駐の車の前で止まってから、車の通行がないタイミングで路駐の車を避けます。

バリアフリー 調査報告

田中さんと戸松さんと一緒に
多治見駅周辺を歩き、
気付いたポイントをご紹介します。

調査ルート

生活介護事業所 クリパラボ ←→ 多治見駅 改札口

行きと帰りを違うルートで調査しました。
今回は調査のために段差がある場所や交通量が多い場所も、
安全を確保した状態で歩行いただきました。

注意・不安な ポイント

- 行きのルート
- 帰りのルート
- 車道
- 横断歩道

配慮された バリアフリーポイント

- 歩道
- 点字ブロック
- 遊歩道・地下道
- 階段
- EV エレベーター
- 建物
- 駅
- 線路



C 多治見駅周辺の 歩道の点字ブロック

歩道に点字ブロックが設置されているため、白杖を使用して歩行することができます。点字ブロックは、多治見駅構内まで続いています。

B 誘導音の鳴る 信号機

歩行者信号が青のときに音が鳴り、歩行者に青信号であることを知らせます。縦方向・横方向で音が異なり、渡る方向で迷いにくくなっています。

※ 本町1と本町2の信号機でも誘導音が鳴ります。



A 信号のない交差点

音だけで車や自転車が来ているか判断できないため、介助者が車が来ていないか安全を確認してから、横断歩道を渡ります。

I 途切れる手すり

階段部分には手すりがありますが、段差がない部分には手すりが設置されていません。階段を手すりを使って下りると、手すりがなくなったときに進行方向や位置がわからなくなります。

今回は段差がない部分を介助者の肩に手を置いて歩行しました。



J 斜め・カーブの点字ブロック

斜めやカーブの点字ブロックは、直線や直角の点字ブロックよりも進行方向を見失いやすいです。介助者が事前に進行方向を伝えます。



K 点字ブロックに重なるマンホール

進行方向にマンホールが重なっていて、点字ブロックが途切れています。足裏で凹凸を感じづらく、進行方向がわからなくなります。



H 地下道の出入口の段差

出入口に水の浸入防止のために設けられている段差があり、介助者は段差を知らせる必要があります。



G エレベーターのボタンと音声案内



ボタンの下に点字があり、押すボタンがどれかわかるようになっています。多治見駅南口のエレベーターは、1階と2階で扉の位置が異なります。どちらの扉が開くのかのアナウンスが流れるため、音声で聞こえた方向が開く扉だとわかります。

F 改札の盲導鈴と音声・点字付き案内板

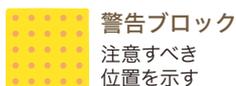
「ピーン・ポーン」という音で視覚障がい者に改札や入口の位置を知らせる誘導サインが鳴っています。音が鳴る方向から、改札の位置を把握することができます。

また、切符売り場近くにある駅の施設案内版には、音声案内が再生されるボタンと点字での案内があり、視覚障がい者の方でも施設情報を知ることができます。



点字ブロック (視覚障害者誘導用ブロック)

視覚障がい者が安全に歩行できるように、歩道や施設の床に設置された表面に突起がついたブロックです。足裏でブロックの突起を感じ取ることで、進行方向や危険箇所を認識できるようになっています。



E 人通りの多い多治見駅構内

人通りが多く周囲の音が大きいため、他の人とぶつからないように、介助者との距離を詰めたり、大きめの声で声かけをします。

D 階段の点字

遊歩道や多治見駅の階段の手すり部分には、どこへ向かう階段なのかが点字で書かれています。



白杖での 移動方法

誘導ブロック



警告ブロック

足裏で情報をキャッチ

白杖と足裏の感覚で、点字ブロックが誘導ブロックか警告ブロックかを判断しています。

白杖を左右に振る

白杖を左右に振ることで、どこまでが点字ブロックや歩道なのかを確認します。

白杖で段差を確認

階段などの段差では、先に白杖で次の段の高さ・距離・広さを確認してから、足を出します。



音も重要な情報源!

人・車・バイクの場所など、音の種類や遠近で危険度を感じとります。改札で鳴る誘導音やエレベーターの案内アナウンスなど、音で設備の位置を把握することができます。

移動の 支援方法

移動の際は、介助者が同行し、進行方向や道路状況についてお伝えします。

声かけのポイント

Point 1 事前に伝える

あと〇〇歩で左へ曲がります

この先階段を上ります

Point 2 状況を言葉で伝える

右側に車が停まっています

Point 3 短くわかりやすく

右・左・前・後ろ

×あそこ・こっち



並んで歩行する場合

- 介助者は道路側に
- 介助者は少し前を歩く
- 腕または肩に手を置いてもらう



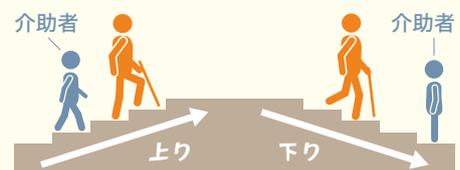
白杖を使用する場合

- 白杖の邪魔にならない場所で同行する

白杖に当たらない位置から進行方向や信号の状況を伝えます。安全に歩行できるように声かけをします。

階段での移動のときは…

上りでは後ろ側・下りでは前側で同行し、もしバランスを崩しても支えられるようにします。



調査員インタビュー

Q 移動のときに不安になったり困る場面は？



点字ブロックを見失う



急に大きな音が聞こえる



雨の日



風が強い日



点字ブロックの上に人が立っている・ものが置いてある

Q 「こうなってくれると嬉しい!」と思うことは？

- 点字ブロックがもっと増えてほしい
- 横断歩道にも点字ブロックがあると安心
- 音声つき信号がもっと増えてほしい
- 音や点字で場所がわかる工夫が、まち全体に広がってほしい

白杖を使って1人で歩ける場所が増えると嬉しいです!



知ってほしい!

視覚障がい者のSOS

白杖SOSシグナル

白杖SOSシグナルとは、白杖を頭上50cmほど掲げて、周囲に助けを求める意思を伝えるサインです。

Q 視覚障がい者の方が困っていたときは、どうしたらいいですか？

身体に触れるときは事前に声かけがあると安心できます

まずは「大丈夫ですか?」と声をかけてもらえると嬉しいです。助けが必要かどうかを聞いてもらえると助かります。

だれにでもできる配慮

バリアフリーというと、特別な設備や大きな工事が必要だと思うかもしれませんが。

でも、まちの中では、私たち1人ひとりのちょっとした意識が、大きな助けになることがあります。普段の行動を見直してみませんか？



特集

フクシのお仕事魅力発見

事業所スタッフに
インタビュー！

Staff interview

ジオホームでは
ご利用様のことを
「入居者さん」という愛称で
呼びしています

福祉の現場で働いてみて、
「福祉は他人事じゃない」と感じるようになりました。

事業所の紹介をお願いします。

GiOhomeは、障がいのある方が一人部屋で暮らしながら、仕事に通い、自立した生活を目指すグループホームです。言葉での会話が難しい方もいますが、声や表情で気持ちを伝え合い、みんなでにぎやかに過ごしています。

福祉の仕事に携わった
きっかけを教えてください。

もともとサッカーチームに所属しており、そのチームのスポンサーを通じて紹介されたことがきっかけでした。

「人のためになる仕事がしたい」と思っていたことや、「普通の高校生とは少し違う経験してみたら」という家族の言葉もあり、この仕事に挑戦することを決めました。



仕事内容を教えてください。

食事の介助や皿洗い、トイレ・歯みがきのサポート、就寝の見守りなど、生活全般の支援を行なっています。入浴介助も、必要なときには担当することがあります。

初出勤の日は
どんな気持ちでしたか？

最初は「みんな普通に話せて、歩ける人達なんだろう」と思っていました。しかし実際に関わる中で、一人ひとり障がいの違い、それでも毎日一生懸命生活している姿を見て、「すごいな」と感じました。

どんなときにやりがい
感じますか？

この仕事で一番やりがいを感じるのは、入居者さんの変化を近くで見られることです。体調を崩していた人が元気になったり、前より歩けるようになっていたりすると、本当にうれしくなります。「この仕事をしていてよかったな」と思える瞬間です。

共同生活援助 GiOhome 支援員

ジオ・ホーム
GiOhome

橋本 奏真さん

Soma Hashimoto

今回のスタッフインタビューはこちらの方！
通信制高校に通いながら、実業団サッカーチームに所属する傍ら、福祉事業所でアルバイトとしてお仕事されている橋本さんにインタビューさせていただきました。





実際に働いてみて、福祉のイメージの変化はありましたか？

働く前は、「福祉」という言葉の意味をよく分かっていませんでした。しかし、実際に働いてみて、事故や病気などで福祉サービスを利用することは、誰にでも起こり得ることだと知り、「福祉は他人事じゃない」と感じるようになりました。

得意なことが役に立った場面はありますか？

力仕事ができることや、誰とでも話せることがとても役に立っています。人と話すのが好きなので、入居者さんとの会話を楽しんでいます。

印象に残っているエピソードはありますか？

入居者さんがのびのびフェスでギターを弾いて歌う姿を見たことが、特に心に残っています。普段あまり関わることがない入居者さんでしたが、イベントを通して活躍を知り、演奏している姿に感動しました。

仕事を通して成長したこと、福祉とは何か教えてください。

一番成長したと感じるのは、周りの人を気にかけるようになったことです。電車でヘルプマークをつけている人を見かけたとき、前は何もできなかったけれど、今は自然と声をかけて席を譲れるようになりました。

Gihomeで入居者さんと関わる中で、「助けが必要な人は、特別な人じゃない」と思うようになったかと思っています。誰もが、助ける側にも、助けられる側にもなる可能性がいつでもあると感じました。

だから僕にとって福祉は、「助け合い」だと思っています。一方的に支えるのではなく、関わることで自分も成長できる。そんなお互いさまの関係が、福祉なんだと思います。

橋本さんの業務内容

- 食事介助 …ごはんを安全に食べられるようサポートします。
- 皿洗い …食事のときに使った食器を洗い、片づけます。
- 排泄介助 …トイレの声かけや付き添いをします。
- 入浴介助 …入浴の準備やサポートをします。
- 歯磨き …歯みがきのサポートや声掛けをします。
- 就寝 …寝る準備を手伝います。

Profile

年齢・所属年数
17歳 | 所属 6ヶ月

趣味
古着集め

休日の過ごし方
筋トレ、友達とご飯、
小学生サッカーチームのコーチ



支援員さん大募集中！

C-POWERグループの福祉事業では、「働く、学ぶ、自立する」ことをお手伝いしています。「充実した毎日を送りたい」「誰かの役に立ちたい」という気持ちの方！
体験・見学からお気軽にご応募ください。

求人の詳細はWEBにて
ご確認ください！

お問い合わせ ☎ 0572-26-7707



私たちと一緒に働きますか？



正社員・
パート・
未経験者歓迎

インタビューに答えてくださったのは…

TRIDでは
利用者さんのことを
アシスタントと
お呼びしています

就労継続支援A型事業所 TRID

アシスタント

おまえ ゆうすけ

尾前 悠輔さん

35歳 | 所属 5年

Profile

障がい ADHD(注意欠如・多動症)

好きなこと
プラモデル作り

趣味・休日の過ごし方
アSEMBリの勉強



TRIDアシスタントとして5年間働いている尾前さん。
日々の仕事の中で大切にしていることや、働くうえで感じている
思いについてお話を伺いました。

普段は、屋外での清掃活動をはじめ、
パソコンを使った業務や、パンの訪問
販売など、様々な仕事に取り組んでい
ます。外で体を動かす日もあれば、
室内で集中して作業をする日もあり、
仕事内容は日によって変わります。

普段どんな活動やお仕事を
していますか？

「コロナを知ったきっかけと
入る決め手を教えてください」
以前通っていたA型事業所が閉鎖に
なるタイミングで、肥田社長から紹介
していただいたことがきっかけです。
パソコン業務ができる点と、社長の
明るく活発な雰囲気惹かれ、利用を
決めました。

いろいろな作業を経験できること
で、自分に合った働き方や得意なこと
を見つけていくことができます。



TRID

しゅうろうけいぞくしえん がたじょうしょ
就労継続支援A型事業所

トリッド
TRID

〒507-0038
岐阜県多治見市白山町4-43-1
TEL:0572-26-8088



? 就労継続支援A型事業所とは

就労継続支援A型事業所は障がい
により企業への就職が困難な方へ、
雇用契約に基づく就労機会を提供
するとともに生産活動を通して、
その知識と能力に必要な訓練など
を提供する事業所です。

? TRIDの特徴

1人ひとりが笑顔で「自立」した人生
を送れるように、就労を通じてと
もに働く仲間を支援しています。
アシスタント(利用者さん)が自ら
の力で前を向いて進めるようにな
るために、自信を持てる環境づく
りをしています。

事業所見学会・交流会「テミル」

開催

どなたでも参加可能！
ぜひお問い合わせください▶▶





得意な作業や、業務の中の楽しい瞬間を教えてください

「得意とはつきり言い切るのは難しいですが、仕事の全体の流れが決まっています、自分の担当分や役割が分かりやすい業務は取り組みやすいと感じています。特に、パソコンを使って黙々と進める作業は集中しやすく、自分のペースで落ち着いて取り組むことができます。」

また、仕事の中で達成感を感じられた時に、「楽しいな」と思うことが多いです。パンの販売では、売れた数が見えて分かるため、頑張った結果を実感しやすく、やりがいにつながっています。

働くうえで大切にしていることはありますか？

仕事のペースと自分の感情のバランスをうまく取ることを大切にしています。以前は、自分の気持ちを無視して「頑張らなきゃ」と無理をしてしまうこともありましたが、今は無理をせず、長く続けられる自分のペースを大切にしています。

障がいについて読者に知ってほしいことはありますか？

ADHDは、気持ちの持ちようだけでどうにかできるものではなく、本人の努力だけでは乗り越えられない部分もあります。気分の波が大きかったり、気が湧かず動けない日があることもあります。そうした状態を「未熟だから」「頑張りが足りないから」と責めてほしくありません。

病院や周りの人のサポートを受けられることも、ぜひ知ってもらえたらと思います。もちろん、自分なりに工夫したり改善方法を探すことも大切ですが、すべてを一人で抱え込む必要はありません。

自分に合った方法を見つけながら、人に頼ることも大切な選択肢のひとつだと知ってもらえたら嬉しいです。

今後の目標を教えてください

長期的な目標を立てるのは苦手なので、まずは日々の業務のペースを安定させることを目標にしています。私の特性として、過集中になってしまったりがあります。過集中の状態では、ちょっとした音や刺激などのちょっとしたきっかけで、集中が一気に途切れてしまうことがあります。集中しすぎてしまうと感じたときは、一度気持ちを落ち着け、自分のペースを安定して保てるよう、日々意識して過ごしています。

TRID支援員から

基本的に、どんな業務もこなすことができます。特にパソコン業務に強く、丁寧な作業にいつも助けられています。



頑張りすぎない、という働き方



インタビューに答えてくださったのは…

SWINGUでは
利用者さんのことを
メンバーと
お呼びしています

就労継続支援B型事業所 SWINGU

メンバー

にしだ みつき

西田 光幸さん

20歳 | 所属 11ヶ月

Profile

障がい 発達障害

好きなこと

ダンス、ゲーム、歌、工作

趣味・休日の過ごし方

いろいろな動画を見て楽しむ



丁寧な作業と周囲との関わりを大切にしながら、日々の仕事に
向き合っている西田さん。

SWINGUで見つけた「自分らしい働き方」を伺いました。

SWINGUを知ったきっかけと
通所の決め手を教えてください

もともと別の事業所でパン作りに関
わっていましたが、体調を崩したと



作業の中で楽しいと感じる
瞬間を教えてください

テープに汚れや小さな傷がないかを
確認する作業では、並べ方を考えたり
など、やりやすい方法を工夫しながら
進められるときが楽しいです。細かい
ところをよく見る作業が得意だと感じ
ています。

をきっかけに一度お休みすることにな
りました。

その後、相談支援専門員さんから
「座ってできる作業から少しずつ身体
を慣らしてみたらどう？」とスイング
を紹介してもらいました。以前に体験
したことがあったことから「こなら
できそう」と感じ、通所を決めました。

SWINGU
スウィング
Strength Which Is Not Given Up

しゅうろうけいぞくしえん がたじぎょうしょ
就労継続支援B型事業所

スウィング
SWINGU

〒507-0048
岐阜県多治見市池田町1-78
TEL:0572-26-7974



? 就労継続支援B型事業所とは

就労継続支援B型事業所は障がいにより企業への就職が困難な方へ、就労機会を提供するとともに生産活動を通して、その知識と能力に必要な訓練などを提供する事業所です。

? SWINGUの特徴

メンバーが自分のペースのできる作業に取り組めるよう、支援しています。

「働くとはどういうことか」「自分にできる仕事は何か」を考えながら、1人ひとりにあった支援計画を基に、自分のできることを仕事にして「働く」ことで、一般就労や次のステップを目指します。



できることから、少しずつ
自分のペースで前に進める場所

働くうえで大切にしていることはありますか？

働くうえで一番大切にしているのは、「丁寧に作業すること」です。ただ作業をこなすのではなく、傷や汚れがないかをしっかり確認し、「商品として出せるかどうか」を意識しながら取り組んでいます。少しでも雑になってしまうと、使う人や周りの人が困ってしまうので、一つひとつ丁寧に作業をすることを意識しています。

今チャレンジしていることはありますか？

力加減や手の動かし方にコツが必要な作業は少し苦手で、「できないかも」と感じることもあります。それでも、支援員さんにコツを教えてもらいながら、何度もチャレンジしています。最初はうまくできなくても、繰り返しうちに少しずつ感覚が分かってくるので、「今日はここまでできた」と感じられる日も増えてきました。

障がいについて読者に知ってほしいことはありますか？

私は発達障害があります。見た目では分かりにくいですが、言葉がすぐに出てこなかったり、黙ってしまうことがあります。それは「やる気がない」わけでも、「無視している」わけでもありません。本人の気持ちや努力だけではどうにもならないこともあります。特別な言葉でなくてもいいので、優しく声をかけてもらえたら嬉しいです。

これからやってみたいことはありますか？

将来は、自分でキッチンカーをやってみたいという夢があります。パン作りが好きで、以前の事業所で関わっていた経験から、「いつか自分のお店を持つてたいな」と思うようになりました。

キッチンカーは大きな目標で、すぐにできることはありません。目標のために今は、スイングで体力をつけながら、少しずつ準備をしています。また、キッチンカーだけでなく、YouTubeで自分の活動を発信したいという気持ちもあります。うまくいかないことがあっても、すぐに諦めるのではなく、「次はどうした

らいいかな」と考えながら進んでいきたいと思っています。



SWINGU支援員から

いつも元気いっぱい明るく、作業中の報告もきちんと行なってくれるので、安心して任せることができます。





／ 元気イーズ ／



イベント
レポート

Cfan フェス

～みんなでつくる福祉～
を開催しました！

2025 **10.4** ± [9:30 開場] **10:00** ▶ **15:30**

会場 パー文化ホール 小ホール/展示室A・B

ステージイベント

出演者

- ・ 元気イーズ
- ・ TAJIMI CHOIR JAPAN
多治見少年少女合唱団と
シニアコア
- ・ フェアリーミュージシャン
- ・ Sul.Sul(スル.スル)
- ・ 進藤誠司氏(株式会社Blueberry)

トークセッション 登壇者

- ・ 肥田和明氏 (C-POWERグループ 代表)
- ・ 原 より子氏 (有限会社アットホーム陶の里
グループ代表取締役)
- ・ 岡 琢哉氏 (カケミチプロジェクト
代表取締役)
- ・ 伊藤克久氏 (生活介護事業所 クリパラボ)

ありがとう
ございました！

展示コーナー

- ・ 企画展示「C-fanで知る身近な福祉」
- ・ けいなん保育園 作品展
- ・ 肥田和明 作品展
- ・ 生活介護事業所 クリパラボ 作品展



クリパラボの
作品！



今回のイベントは、私たちに
企画から運営までを手がける初めての
挑戦でした。
何もないところからイベントをつく
り上げていくことは想像以上に難しい
ものでしたが、出店・出演者の皆さま
をはじめ、多くの方々のあたたかいご
協力と支えにより、当日はたくさんの方
にご参加いただくことができました。

主催者から

ご来場いただき
ありがとうございました！



ボードゲーム



トークセッション



多治見市長と
教育長が
スペシャル登場!!

ワークショップ



福祉ネイル



体験コーナー

- 福祉用具体験 (住ま居るグループ)
- 福祉ネイル (訪問ネイルサービス ひまわり)
- ワークショップ・ボッチャ体験 (放課後等デイサービス アイアム)
- 缶バッジ作り体験 (就労継続支援A型事業所 トリッド)
- ボードゲーム体験 (まいたん!)

飲食・物販

- petit gâteau sumiretta
- 小麦の奴隷 土岐店
- たちばな
- and coffee
- はだし工房共同作業所
- 生活介護事業所 クリパラボ



petit gâteau sumiretta



クリパラボ

来場者の方に 感想をいただきました

スタンプラリーが
楽しかった



C-fanフェスのような
イベントがあって
うれしいです



イベントを終えて

C-fanフェスでは多世代・多様な
方々が交流し、つながりを深め、福祉
を身近に感じてもらうことを目的に企
画が始まりました。今回の開催を通し
て、福祉がより身近で温かいものであ
ることを多くの方に実感していただい
たのではないかと思います。

今後も、皆さまとともに「みんな
でつくる福祉」の実現を目指し、取り組
みを続けていきます。

福祉体験レポート



C-fan編集部のスタッフが、さまざまな福祉体験にチャレンジ！
今回は、車いすでの移動体験と、目隠しをした状態での体験に取り組み、
普段とは違う視点から「暮らしやすさ」を考えました。
このレポートでは、体験を通して見えてきた難しいポイントや支える側
の工夫、配慮したいポイントを紹介します。



車いすでの移動体験

手動車いすに乗り、事務所周辺や屋内を移動しました。最初は操作に戸惑いましたが、慣れてくるとその場方向転換などの細かな動きもできるようになりました。しかし実際に移動してみると、坂道には不安を感じました。緩やかな下り坂でも車いすを押さえていないと勝手に前に進んでしまいがちです。一方上り坂は、常に力を入れてこぎ続ける必要があります。想像以上に体力を使いました。

特に印象に残ったのは、2センチの段差でも思うように進めなくなることです。段差を越えるには介助者に持ち上げてもらう必要があり、その際も落ちないかと不安を感じました。

また、道幅が狭い場所や荷物が置かれた通路では移動が難しく、80センチ未満の狭い通路では、うまく曲がるのができませんでした。

車いすに乗ってみて、身近な環境が「進みにくさ」だけでなく、恐怖や不安につながることを実感しました。



触ってわかる？ お金の違い

目隠しをした状態で現金を触り、お札や硬貨の種類を当てたり、指定された金額を用意したりする体験を行いました。

お札も硬貨も、種類ごとに違いはありますが、触覚だけで判断するのは想像以上に難しいと感じました。お札は種類によって大きさが少しずつ違いますが、それだけでは何の札なのかまでは分かりませんでした。硬貨では、5円玉と50円玉の見分けが特に難しく、手で感じとれる凹凸が少ないほうが50円玉だとわかりました。

実際に目隠しをしたまま指定された金額を確認するまでに1分20秒かかりました。普段は何気なく行っている支払いも、見えない状況では硬貨を1つひとつ確かめながら進める必要があり、時間がかかることを実感しました。お金を使う場面でも、**行動しやすくする工夫や、まわりの配慮が大切だと感じました。**



見えなくても折り紙を折れる？

目隠しをした状態で、指示を受けながら折り紙を折る体験を行いました。「折る」というシンプルな動作でも、想像以上に難しかったです。角を合わせたり、折り紙の中印を把握したりすることが特に難しく、折りがずれてしまいました。

「斜めに折る」という指示では、折った後の状態をイメージしにくく、言葉だけで動作を理解するには、情報が足りないと感じました。

今回はハートやだるまの折り紙に挑戦しました。完成までに5分以上かかりましたが、どの角をどこに向かって折るのかを具体的に伝えることで、少しずつ完成に近づけることができました。

この体験を通して、**してほしい動作を伝える難しさ**と相手に寄り添ったわかりやすい伝え方の大切さを学びました。



手の感覚でもものを当ててみる

目隠しをして、手触りを頼りに机の上にあるものを当てる体験を行いました。思っていた以上に当てるのが難しく、普段の生活でどれほど視覚から多くの情報を得ているのかを実感しました。

特に、パッケージに包まれたものは形が伝わりにくく、ペットボトルやインスタント飲料は、触っただけでは中身が何か分かりませんでした。塩やわさびなども、中身を当てるまでに時間がかかり、わさびをハンドクリームと間違えてしまう場面もありました。また、マフラーをタオルと間違えるなど、感触だけでは判断しきれないこともありました。

さらに、ふたを閉めたり、手袋をはめたりする作業では、ものの向きや位置が分かりにくく、思うように進められませんでした。見えない状態でもものを扱うことの大変さに気づく、貴重な機会となりました。



福祉体験を終えて

今回の車いす体験や目隠しでの体験を通して、見えにくい、動きにくい状況では、普段は当たり前前にできていたことが急に難しくなるということを実感しました。

また、そばで支える人や介助者の声かけや行動、伝え方ひとつで、その人の行動のしやすさや安心感が大きく変わります。**段差や通路といった環境の工夫だけでなく、相手の立場を想像し、思いやりをもって接することが、誰もが安心して過ごせる社会につながる大切な配慮だと感じました。**

この体験レポートが、日常の中で「自分には何ができるだろう」と考える、ひとつのきっかけになれば嬉しいです。

Cfan

-シーファン-
WEBメディア版

設置一覧

お知らせ

WEB版など



読者サポーター・設置場所
大募集中です!



こころと身体の健康増進室

FILE 006

『勇気の思考』

～つくるのも変えるのも自分～

皆さんは「アドラー心理学」を知っていますか？アドラー心理学とは、オーストリアの精神科医アルフレッド・アドラーが提唱した心理学です。「人は目的のもと生きている」「幸せになるには勇気が大事」という考えが根底にあります。勇気が足りないと、やりたいことや課題から逃げてしまい、前向きに生きることが難しくなるため、自分を勇気づけていくことが大切です。

自分を勇気づけ、自信を育てる

自分自身を勇気づけるとは、「私は価値のある人間だ」「私には問題を解決できる力がある」と思えるようになることです。逆に、「自分はダメな人間だ」と思っていると、不安やプレッシャーでつらくなり、他人を励ますこともできません。自分を勇気づけ、自信を育てていけば、過度に周りや将来のことを心配することがなくなり、相手を信頼することができるようになります。

欠点を認め、

自分をありのまま受け入れる

アドラー心理学という勇気とは、「行動しようとする力」のことです。



失敗や嫌なことがあったとき、何もしたくなくなる経験は誰にでもあると思います。でも、「どうせ無理」といった、自分を卑下するような「勇気くじき思考」に負けないことが大切です。

自分の欠点や弱さを認めることは、自分を責めることではありません。ありのままの自分を受け入れることで、少しずつ行動する力が生まれます。そして、自分を勇気づけられる人は、他の人を励ます力も持つことができます。勇気を育てるには、日々の意識や習慣が大切です。

自分を勇気づけられる人の10の特徴

1 自己受容力(じこじやうりょく)

欠点がある自分でも受け入れられる

2 転換力(てんかんりょく)

自分の過去の障害を傷ではなく財産と思える

3 教訓力(きょうくんりょく)

失敗を学習の材料にできる

4 復元力(ふくげんりょく)

失敗してもすぐに元に戻って次に活かす行動が取れる

5 状況転換力(じょうきやうてんかんりょく)

直面するピンチをチャンスに変えられる

6 楽観力(らくかんりょく)

自分の未来に楽観的で見られる

7 共感力(きやうかんりょく)

他者の関心事にも関心を持てる

8 寛容力(かんようりょく)

他者の欠点にも寛容で見られる

9 協力量(きやうりょく)

他者とむやみに競争することなく、協力的な態度が取れている

10 主張力(しゅちやうりょく)

他者に上手に自己主張できる

性格は今この瞬間に変えられる

前向きな気持ちは行動を変える力になります。勇気づけに「大丈夫！」「できる！」と声を出してみてください。疲れたり失敗したときこそ、その言葉が自分も周りも勇気づけ、明日への一歩へとつながります。

障がいがあっても **もっと** 楽しめる!

GOURMET

C-fanでは、合理的配慮に取り組んでいる
多治見市の飲食店を紹介しています。
今回は、これまでに掲載したお店を
まとめてご紹介します



WEB版はスマートフォンからアクセス!

バリアフリー項目

通路走行可能 店内を車いすで移動できる	テーブル下◎ 車いすのままテーブルにつける
入口80cm以上 出入口の幅が80cm以上ある	段差5cm未満 店内の段差が5cm未満
写真メニュー メニューに写真が掲載されている	カトラリー対応 お箸以外もカトラリー対応可能
筆談可 筆談での対応が可能	洋式トイレ 同じフロアに洋式トイレがある
自席決済可 席についたままお会計が可能	電子決済可 クレジットカードや電子マネーに対応



本格中華とおいしいビールで至福!

中華料理 ちゅうかろう **中華楼せん**
 スロープ◎ 段差なし
 軽度な介助◎ 事前連絡不要

📍 多治見市音羽町3-20 ☎ 0572-25-2170
 🕒 11:30~14:00(L.O 14:00)
 17:30~23:00(L.O 22:30)【定休日】月



落ち着いた店内でスパイスを楽しむ

多治見のスパイスカレー屋 **スパイスファクトリーあべべ**
 スロープ◎ 段差なし
 軽度な介助◎ 事前連絡不要

📍 多治見市本町2-49-7 ☎ 080-6244-1188
 🕒 月火水木日 | 11:00~22:00
 金土 | 11:00~24:00



素敵な美濃焼でおいしいお料理を。

和食・割烹料理 なにわ **浪花**
 スロープ◎ 広タトイレあり
 軽度な介助◎ 事前連絡不要

📍 多治見市栄町1-46
 ☎ 0572-23-6639
 🕒 11:00~14:00(土日のみ)
 17:00~22:30
 【定休日】月



大阪の味といえばやっぱりココ!

名物串カツ 大阪伝統の味 **串カツ田中** アスティ多治見店
 多目的トイレ近 段差なし
 軽度な介助◎ 事前連絡不要

📍 多治見市音羽町2丁目79-1 アスティ多治見1階
 ☎ 0572-56-9094
 🕒 月火水木金 | 16:00~24:00
 土・祝前日 | 12:00~24:00
 日・祝日 | 12:00~24:00【定休日】不定休



C-fanでは合理的配慮に取り組む飲食店を募集中!
 掲載のご希望は株式会社SMC-POWERまで!

☎ 0572-26-7707

※ 合理的配慮とは、人々の幸福や安全を考慮して、適切な支援やサービスを提供することを指します。

就労継続支援
A型事業所



多治見市A型事業所スコア「175点」最高位取得！
働く環境と支援の質が「市内で最も高く」評価されました。

Cfan シーファン

Vol.07

情報更新中！
WEB版

令和8年1月号(季刊) 制作・発行元/株式会社 SMC-POWER 企画・編集/クリエイティブ事業部 〒507-0025 岐阜県多治見市宮前町2-47-1
設置・掲載に関するお問い合わせ先: 0572-26-7707
本誌を印刷で掲載することはありません

要予約 & 無料

“働く”を知る

A型事業所 見学&説明会



卒業後の「はたらく」を一緒に考えてみませんか？

「学校を卒業したあと、うちの子はどんな場所で働けるんだろう？」
「働くことができるのかな」そんな保護者の声から、この見学会を企画しました。
実際の“働く現場”を見て、A型事業所での仕事・サポート体制を知ることができます。

TRIDの特徴

- ✓ 一般企業への就職支援も充実（年間15名の実績）
- ✓ 地域トップクラスの時給と柔軟な勤務制度
- ✓ 相談しやすいスタッフが丁寧にサポート

お申し込み方法

右記QRコードから、スケジュールをご確認のうえ希望の日時を選択してお申し込みください。

2.12 木 2.24 火 4.9 木 4.21 火
3.10 火 3.26 木 各日 14:00～15:00



お問い合わせ先

就労継続支援A型事業所 **TRID** 〒507-0038 岐阜県多治見市白山町4-43-1 TEL 0572-26-8088

一緒に「Cfan」を楽しみながら盛り上げてくれる

読者サポーター 大募集！

登録は無料です

読者サポーターって何？

メディアづくりに関するアンケートや、情報提供、イベント参加や商品・サービスモニターなど、一緒に「Cfan」を盛り上げていただく方々のことです。

応募概要

- 障がい者・難病の当事者またはご家族の方（障害者手帳の有無は問いません）
- 企画にご協力いただける方
- C-fanからのメールを受け取れる方

読者サポーターへのご応募はこちら

「お問い合わせ」のアイコンから応募してください



スタッフ募集 C-POWERグループで一緒に働く仲間を募集しています！（募集職種：福祉部門・総務）

FREE ¥0